マラウイ・ケニア活動記録

2014 年入局　池田恵理子

2025 年 5 月 2 日～5 月 24 日までの約 3 週間、マラウイおよびケニアに滞在しておりました。どちらも 10 年以上前から複数回訪問してきた土地であり、懐かしい面々や景色に迎えられ、充実した滞在となりました。

マラウイは第 2 の都市であるブランタイヤに 2 週間滞在し、長崎大学医学生の臨床実習のサポートの傍ら、新しいマラリア診断装置の可能性について、現地で活動するマラリア研究者と協議しました。ブランタイヤにある Queen Elizabeth Central Hospital には、35 年に渡ってマラリア研究を継続している施設があり、特に脳性マラリアで有名です。小児の脳性マラリアの意識レベルを評価する Blantyre Coma Scale にも、ブランタイヤの地名が冠されています。脳性マラリアと網膜所見の関連、発熱・意識障害を呈する非脳性マラリア疾患の解明、脳性マラリアに対する新規治療薬の開発、無症候性マラリアの診断方法の模索など、現在も進行中の研究も複数あり、その解説を受けながら研究室や病棟を見学させていただき、非常に興味深い経験でした。また、我々の新しいマラリア診断装置も活躍の余地があることが分かり、関係各所への面会を一気に進めることができたことは大きな成果でした。中心地から車で数時間離れた地方の診療所にも訪問することができ、現場で実際に働いている現地の医師や看護師さん、生活している人々と触れ合うことができ、やはり現地に訪問することの大切さを実感しました。

ケニアはビクトリア湖湖畔のビタという村に 1 週間滞在しました。天井蚊帳の効果を確かめる試験を行っている地域であり、天井蚊帳導入前のマラリア感染率を調査しているチームに参加しました。対象となっているお宅を一軒一軒訪問しながら、蚊帳の使用歴や体調などを聴取の後、迅速診断キットでマラリア検査を実施します。日中学校に行っていて自宅にいない子供たちを学校に探しに行くこともあり、肌が白い人が珍しいため、あっという間に大勢の子供たちに囲まれました。みんな元気に見えましたが、迅速診断キットでは子供たちの 15～20%が陽性の結果でした。15 年前に初めてこの地に来た時には、60%が陽性だったことを思うと、かなり状況は改善したと感じますが、いまだゼロにはならないことに、マラリア制御の難しさを感じました。一方で、ビクトリア湖の波の音と湖面に沈んでいく夕日の綺麗さは、ずっとあの時のままで、いつでも私の心を癒してくれるのでした。

あっという間の 3 週間でしたが、目的は達成し、非常に有意義な時間でした。毎回快く送り出してくれる職場のみなさまに感謝です。今後もアフリカの人々の健康に関われる仕事が続けられるよう、精進していきたいと思います。ありがとうございました。

マラリア研究用の病棟。25 年前に作られたもので、当時のレンガ造りのまま。（マラウイ）

病院の敷地中で自由に洗濯し、地面に布を敷いて乾かす患者さん家族のお母さんたち。（マラウイ）

中心地から車で数時間の地方にある診療所。水は井戸のみ。電気がない。（マラウイ）

学校に行くとあっという間に生徒に囲まれる。（ケニア）

一軒一軒訪問し、問診とマラリア検査を実施する。（ケニア）